

AI時代の大学改革—教育と業務のリデザインを考える

講師：徳安達士（福岡工業大学） 森木銀河（会社員/gmoriki代表）

座長：西城卓也（MEDC）

今回の教員職員が一堂に会するセッションであるMEDParkでは、生成AIを話題に取り上げました。生成AIの急速な普及は、医療系大学における教育や日常業務のあり方を大きく変えつつあります。いま求められているのは、新しいツールを導入すること自体ではなく、AIによって何が効率化され、何が新たに可能になるのかを見極めながら、人が担うべき判断や対話、責任のあり方をあらためて問い直すことです。医療系大学では、学生がAI時代に必要な力を身につけることに加え、教職員自身もAIを適切に活用し、教育や業務をよりよく支えることが求められています。その一方で、現場には期待と不安、利便性への注目と慎重な姿勢が併存しており、AI活用をめぐる議論は、理念か実務か、教育か業務か、という二項対立に傾きがちです。MEDParkは、こうした課題を教員だけ、あるいは職員だけのものとして切り分けるのではなく、教職員双方が集い、それぞれの立場から実践や課題意識を持ち寄りながら、ともに考える場です。だからこそ本パネルでは、AI活用を単なる便利な道具の話としてではなく、教育の質、業務の質、そして教職協働のあり方を問い直す契機として捉えたいと考えています。そのうえで本企画では、まず教育の側面から、AIをどのように学びに位置づけ、学習支援や教育設計のなかでどう活用していくのかという論点に目を向けます。続いて、日常業務の側面から、AIを実際の業務改善や働き方の見直しにどう結びつけていくのかを考えます。教育と業務は本来切り離せるものではなく、両者を往還しながら考えることで、医療系大学におけるAI活用の現実的な方向性がより鮮明になるはずですよ。お二人の実践から、AI時代の大学のこれからの皆さまとともに展望したいと思います。

アソシエイトポイント：ML 0.25

AI時代の大学改革—教育と業務のリデザインを考える

セッション1

AIの利活用と医療系教育の再考

— 教育の構造化と可視化：失敗から育つ判断力 —

講師：徳安達士（福岡工業大学）

生成AIの急速な進展は、医療系大学における教育の在り方に本質的な問いを投げかけています。AIは膨大な情報を即時に提示し、学生が自らの知識を補充・整理・要約するうえで有効なツールであり、学習効率の向上に寄与します。しかし一方で、AIあくまで知識獲得を支援する手段に過ぎず、臨床現場で求められる知識の運用能力や責任ある判断力を自動的に育成するものではありません。本講演では、AIの利活用を前提としつつ、医療系教育を「構造化」と「可視化」の観点から再考します。学習者本位の学習スタイルへの転換を基盤に、アクティブラーニングを通して学習の主導権を学生に委ねる教育設計を提示します。さらに、教育の構造を可視化することで、AI時代における教員の役割を見直す契機としたいです。安全に失敗できる環境で挑戦と内省を重ねることにより、知識を社会で運用できる判断力をいかに育むか。その問いを、皆様の現場に持ち帰っていただく機会としたいです。

AI時代の大学改革—教育と業務のリデザインを考える

セッション2

「まず使ってみる」から始まる大学AI活用 ——事務職員の現場から見えること

講師：森木銀河（会社員/gmoriki代表）

生成AIの急速な普及に伴い、大学においても教育・研究・事務の各領域でその活用が模索されています。しかし現場では、AIを日常的に使いこなす層とまったく触れていない層の間に大きな溝が生じており、「よく分からないから使わない」という判断が固定化しつつあります。本講演では、元大学事務職員として複数大学の生成AI研修・導入支援に携わってきた経験をもとに、AIリテラシーの基礎と社会動向を概観したうえで、業務における具体的な活用事例を紹介します。効率化の恩恵だけでなく「AIで仕事が増えた」といった現場の声にも触れ、真に有効な活用とは何かを考えます。さらに、教員と事務職員が互いの業務を理解し協働することで生まれる可能性についても提起したいです。参加者が講演後に「まず一度使ってみよう」「ガイドラインを読み直そう」など、具体的なアクションを一つでも持ち帰れる場を目指したいです。